

《巻頭言》

第18回日本禁煙学会学術総会に向けて

第18回日本禁煙学会学術総会 会長
西伯病院 院長、鳥取大学名誉教授、日本禁煙学会特任理事

長谷川純一

よなご
米子で会いましょう!!

はじめに

世界中に大きな爪痕を残した新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) も、わが国では2023年5月に感染症法上の位置付けを2類から5類に移行させたことにより、社会が大きく動き始めました。医療関係者の奮闘とそれを支える政策が実行できる国富や協力的な国民性などが寄与したと思われませんが、世界的に低い死亡率で収まる内に、mRNAワクチンの数回接種と重症化率の低下した株への変異などが重なり、感染の恐怖が薄らいだようです。実際にはその感染性の高さから感染者数の第10波を迎えているものの、世の中はパンデミック以前の状態に近い生活を指向しているようです。第18回日本禁煙学会学術総会米子大会は、この機会に対面でディスカッションできる現地開催を計画しました。2024年11月16日(土)、17日(日)は米子で会いましょう。

1. 受動喫煙のない日本へ

今回の学術総会のテーマは「受動喫煙のない日本へ」です。究極の受動喫煙ゼロは喫煙者ゼロではありませんが、難しい問題です。世界では、ある世代から喫煙者ゼロを目指すなど急進的政策を打ち出す国も出始めていますが、喫煙場所の減少に激しい抵抗のみられるわが国です。自らの意思に反して喫煙させられる受動喫煙をなくすという誰もが認めうる条件でありながら、まだどの国も達成できていないこの課題を達成すべく、知恵を絞る大会にできればと思います。実際、半世紀前は列車内や飲食店内、あらゆる所に灰皿が設置され、もうもうたる煙の中で過ごしていました。学校の職員室などは授業を終えた、あるいはこれから授業に出かける教師のタバコで煙っていた子供の頃の記憶がま



図1 学術総会ポスター

<https://www.kwcs.jp/jstc2024/>

だ鮮明に残っています。入院病棟の詰所でも医師が喫煙する姿がありました。それも喫煙の影響の強さが認識されるに従い、広く保健の立場からの働きかけが顕著な効果を上げるようになってきました。かつてのダンディーで憧れの的だった喫煙教師が、酸素ボンベを牽いて通院しておられる姿を見ると時代を感じてしまいます。

受動喫煙による健康への影響は明らかで、広く周知されてきています。大きく低下した喫煙率ですが、それだけ受動喫煙が目立ちます。ラグビーワールドカップの開催、2020東京オリンピックなどを契機に盛り上がったスポーツ施設や都市の禁煙化も、喉元過ぎれば何とやらのところがないでしょうか。飲食店や公共施設の喫煙制限で虚血性心疾患の減少が見られるなど政策の有効性について海外の報告のみならず、わが国からもエビデンスが集まりつつあります。受動喫煙根絶に向けた皆

様の積極的・建設的なご提案、ご議論を期待したいと思います。

2. 喫煙の諸課題克服にむけて

COVID-19への喫煙の影響が喧伝され、喫煙者で有名な芸能人の感染重症化や訃報などを耳にした当初、各地の喫煙所の閉鎖や利用制限などが一気に進んだ印象がありました。しかし、関心の低下とともにCOVID-19も喫煙を危険因子とする多くの疾患の一つという程度になってしまったのでしょうか、揺れ戻しがあるようです。この点では医療関係者からの絶え間ない言及が必要と思われます。

ここ40～50年の喫煙率の低下は、各方面の努力の成果と思われますが、最大の論点である喫煙の健康への悪影響という根幹に関わる問題で新たな課題が生じています。有害性物質の発生が少ないと宣伝する加熱式タバコの登場です。主要な有害物質は標準タバコよりわずかに少ないだけで、その喫煙の有害性が大きく減少することがないことはこれまでの知見で明らかですが、このハームリダクション広告や、新規性に惹かれる喫煙者が多いのは事実のようです。それよりも多くの喫煙者が利用しているマイルドタバコに比べ、高いニコチン濃度により、依存性を高めることは必至であり、喫煙継続による受動喫煙根絶への妨げになるものとして対処が求められます。

改正健康増進法により受動喫煙の危険が大きく減少したことは事実でしょうが、問題もあるようで

す。加熱式タバコを別扱いにすることはその危険性を否定することに加担する可能性があることや、喫煙目的施設の形骸化なども今後さらなる改善が必要と思われます。引き続き問題提起する姿勢が重要と思われます。

おわりに

このところ日本禁煙学会学術総会はWeb開催やハイブリッド開催が続きました。第18回総会は鳥取県の西端米子市の米子コンベンションセンターにて現地開催させていただきます。多職種の人たちが一堂に会して議論できたり、情報を交換できる絶好の機会です。「米子で会いましょう」を合い言葉に、お互いの顔を付き合わせて語り合しましょう。会場は山陰鉄道発祥の地であるJR米子駅に近く、米子鬼太郎空港からも車で25分です。市内には海に湯が沸くと唄われた皆生温泉があり、NHK番組で日本の最強の城に挙げられた米子城跡も近くにあります。学会後には21年連続日本庭園世界一の足立美術館で横山大観などの日本画や北大路魯山人の陶芸に触れるのも一興です。「食のみやこ鳥取」の冬の味覚松葉ガニ漁も解禁され、ちょうど食べ頃。牛しゃぶの生まれた鳥取ではありますが、日本のブランド牛の始祖と言われる鳥取和牛のなかでも、鳥取和牛オレイン55の商標を持つ肉の、口中でとろけるステーキも味わっていただきたいと思います。皆様のご参加を心よりお待ちしております。